

## 有珠山の火山活動解説資料（令和2年12月）

札幌管区気象台  
地域火山監視・警報センター

火山活動は静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。  
噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

### ○活動概況

#### ・噴気などの表面現象の状況（図1-①～④、図2～5）

7日に実施した上空からの観測（国土交通省北海道開発局の協力による）では、山頂火口原内の噴気等の状況に変化はなく、赤外熱映像装置による観測でも地表面温度分布に特段の変化はありませんでした。

監視カメラによる観測では、山頂火口原からの噴気の高さは火口縁上100m以下で、噴気活動は低調な状態です。

#### ・地震及び微動の発生状況（図1-⑤、図6）

火山性地震は山頂火口原直下で発生しました。地震回数は少なく、地震活動は低調な状態です。火山性微動は観測されていません。

#### ・地殻変動の状況（図7）

GNSS連続観測では、火山活動の高まりを示すような変化は認められません。

---

この火山活動解説資料は札幌管区気象台のホームページ(<https://www.jma-net.go.jp/sapporo/>)や気象庁のホームページ([https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly\\_v-act\\_doc/monthly\\_vact.php](https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php))でも閲覧することができます。

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、北海道大学及び国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』を使用しています。

次回の火山活動解説資料（令和3年1月分）は令和3年2月8日に発表する予定です。

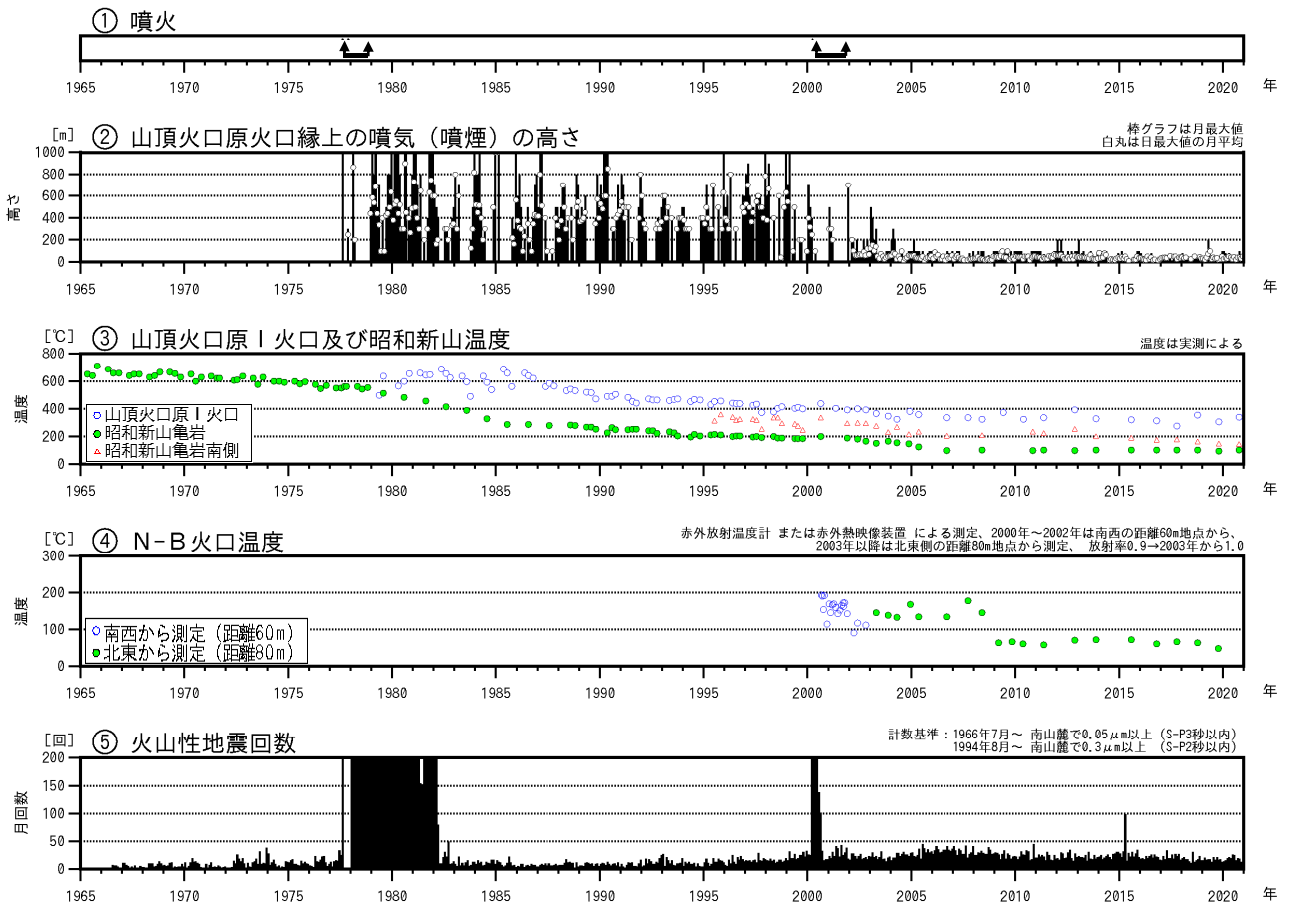


図1 有珠山 火山活動経過図（1965年1月～2020年12月）  
↑印で挟まれた期間は噴火活動期を示します。

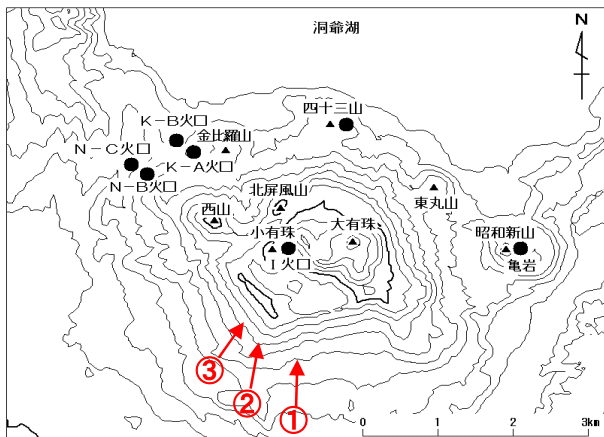


図2 有珠山 周辺図と赤外熱映像及び写真の撮影方向（矢印）



図3 有珠山 山頂火口原周辺の状況  
南側上空（図2の①）から撮影

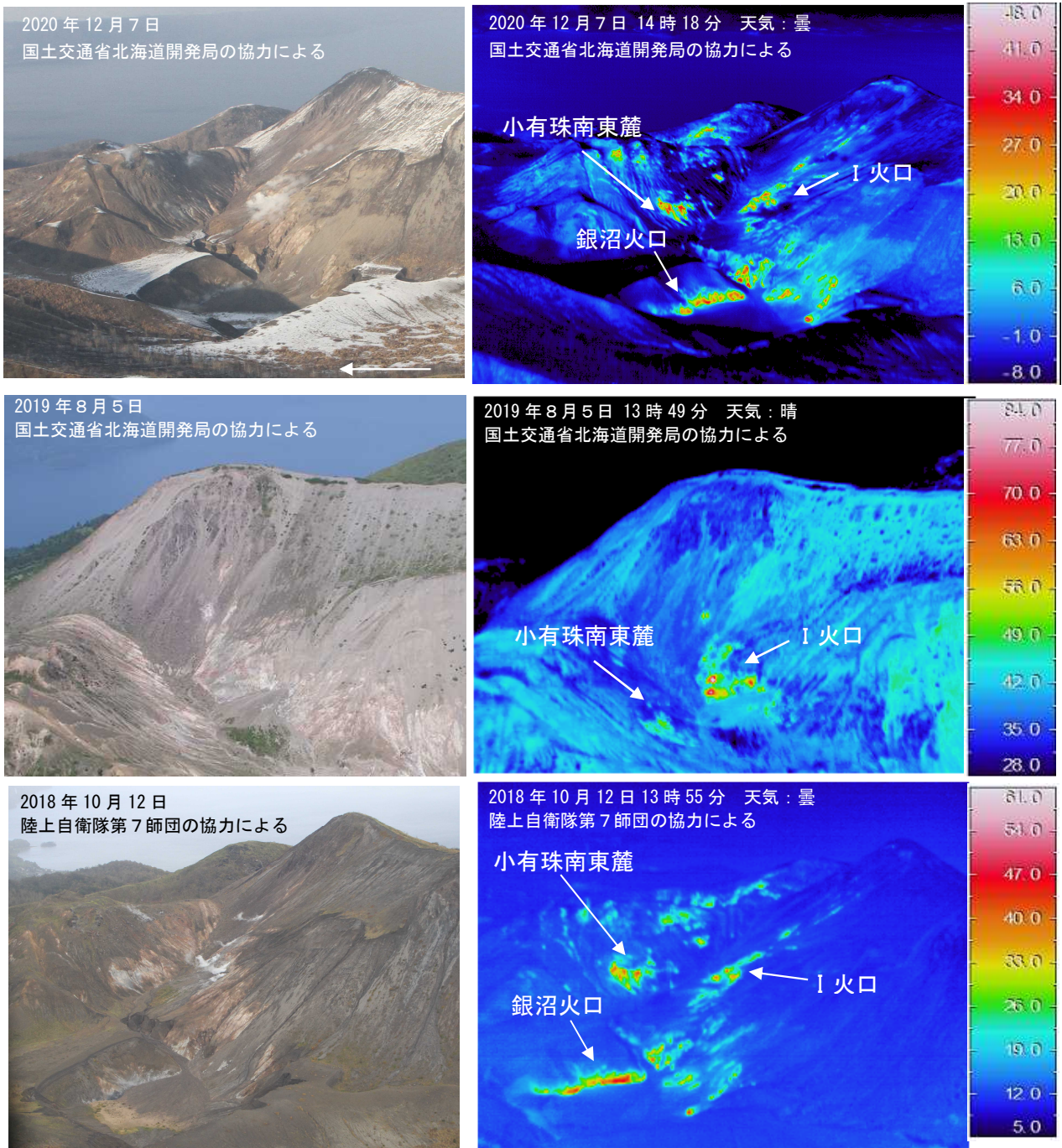


図4 有珠山 赤外熱映像装置による山頂火口原の地表面温度分布

上段：南側上空（図2の②）から撮影  
中段：南西側上空（図2の③）から撮影  
下段：南側上空（図2の②）から撮影

・ 山頂火口原内の噴気や地表面温度分布に特段の変化は認められませんでした。



図5 有珠山 北西側から見た山体の状況（12月22日、月浦監視カメラによる）

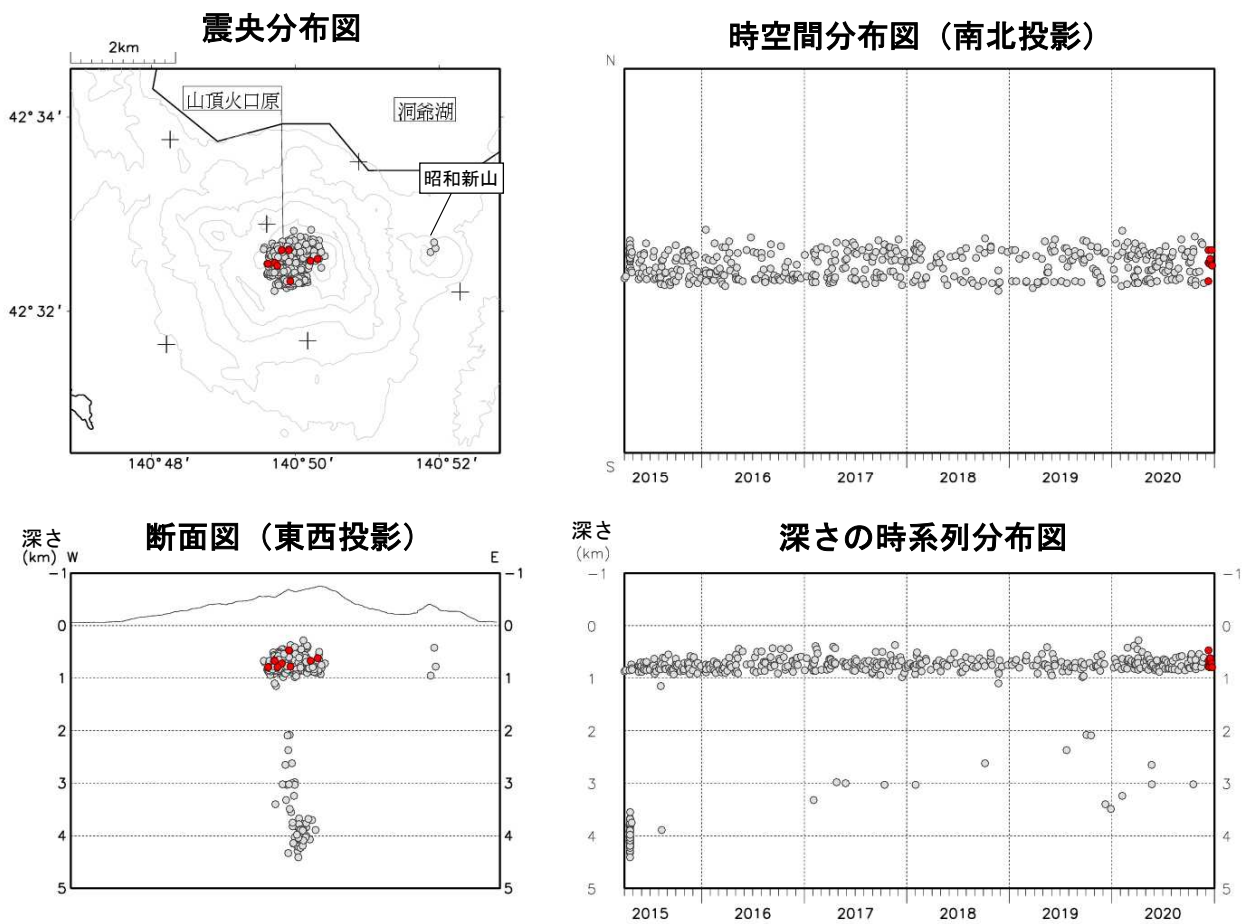


図6 有珠山 火山性地震の震源分布（2015年4月～2020年12月）

●印：2015年4月～2020年11月の震源    ●印：2020年12月の震源  
 +印：地震観測点

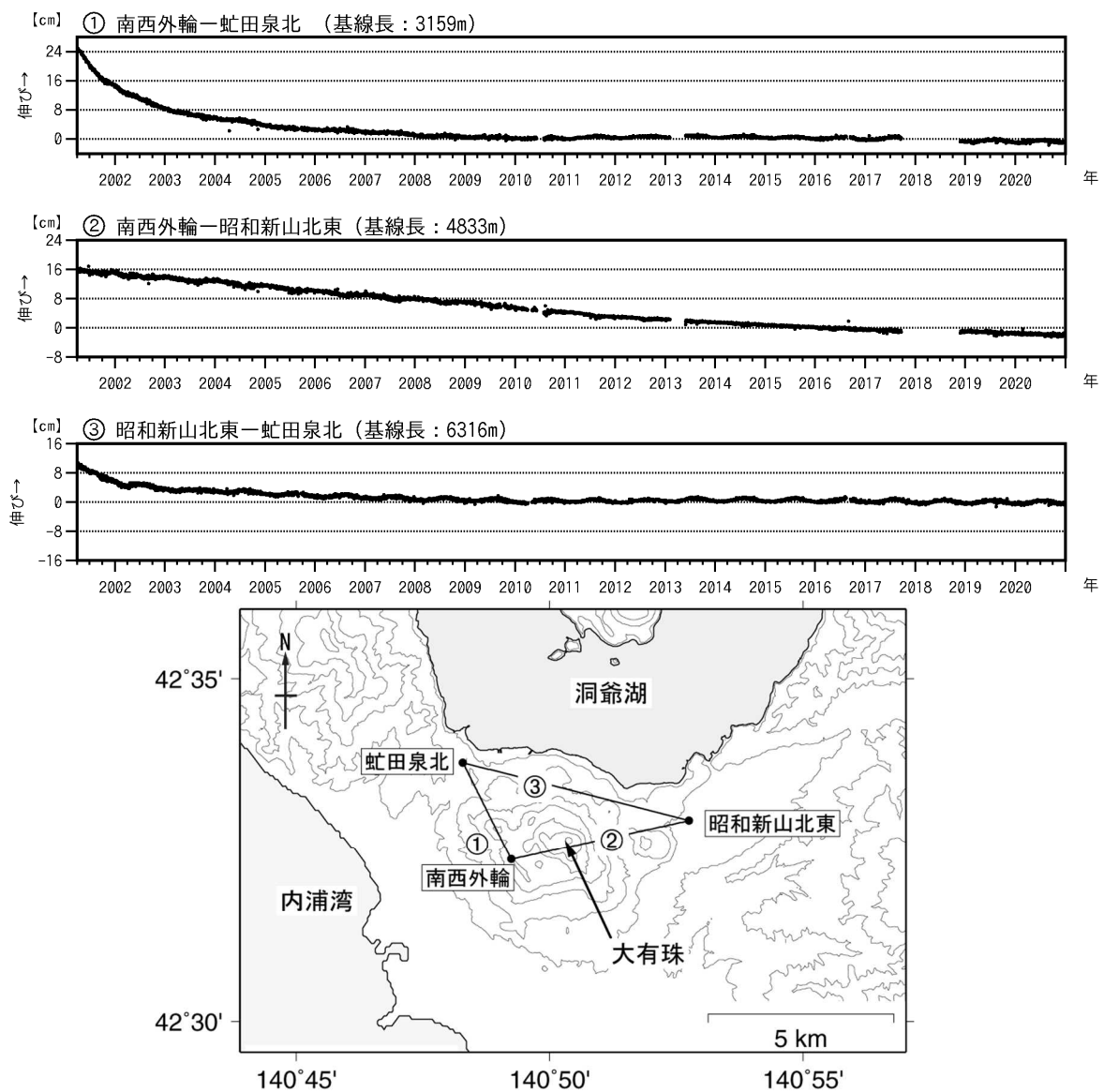


図7 有珠山 GNSS連続観測による基線長変化（2001年4月～2020年12月）及び観測点配置図  
 GNSS基線①～③は観測点配置図の①～③に対応しています。  
 GNSS基線の空白部分は欠測を示します。  
 2010年10月及び2016年1月に解析方法を変更しています。  
 ・観測開始（2001年）以降、有珠山山頂部を挟む②の基線での収縮は現在も続いています。

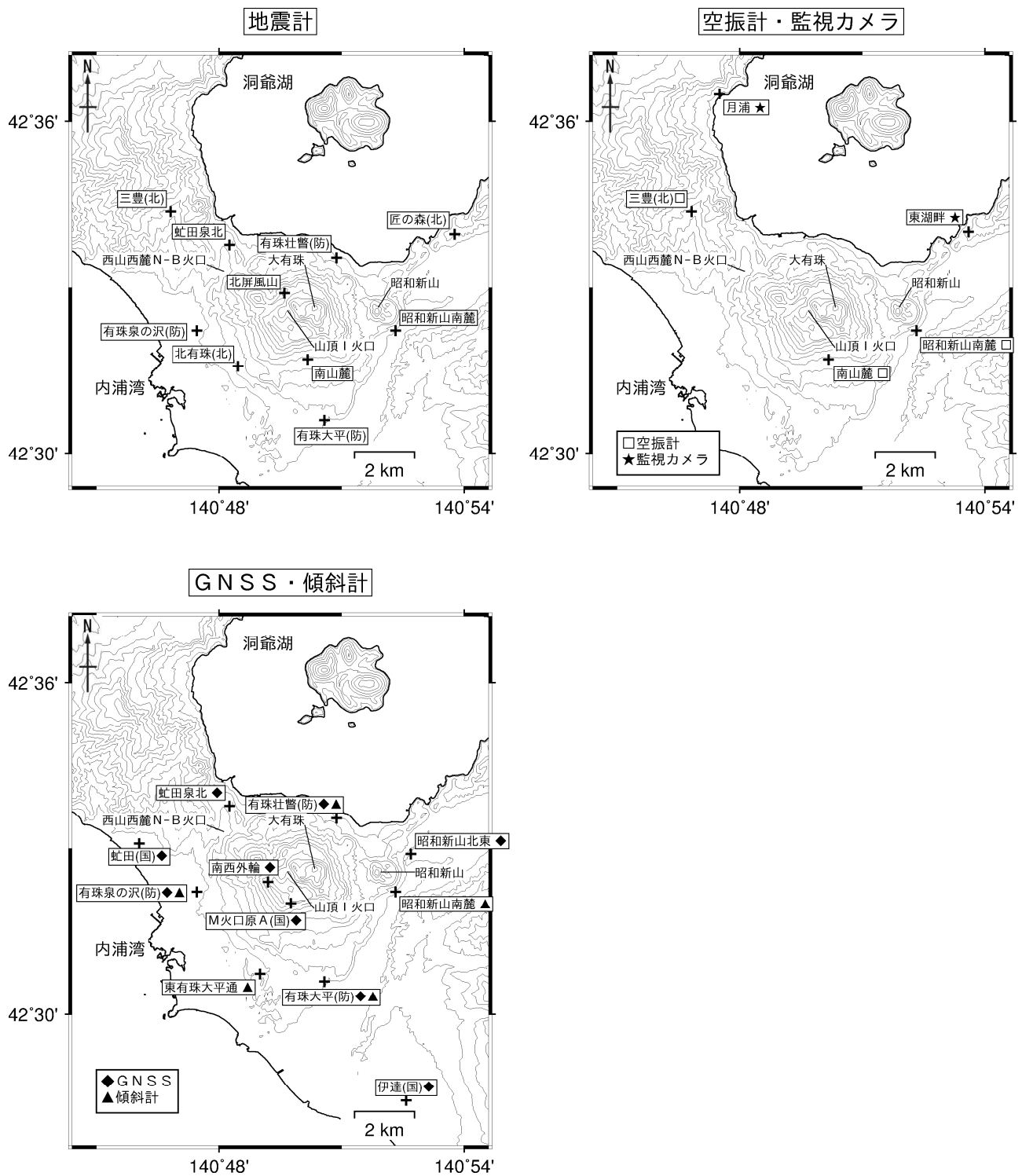


図8 有珠山 観測点配置図

+印は観測点の位置を示します。

気象庁以外の機関の観測点には以下の記号を付しています。

(国)：国土地理院

(北)：北海道大学

(防)：国立研究開発法人防災科学技術研究所